

 SASEBO CULTURE MAGAZINE

# 文化のチカラ

VOL  
**09**

2018  
Autumn



特集 **映画と佐世保**

第7回させぼ文化マンス

あの頃、

# 佐世保は「映画の街」だった

明治43年(1910年)日露戦争の凱旋ムードも残る中、佐世保の映画の歴史は幕を開ける。記念すべき最初の上映作品は、陸軍観兵式の実写映像だったという。その後、海軍の街として発展するに従い、昭和初期にかけて映画館が次々と開館する。戦後、駐留軍向けに開業した大型ダンスホール、九州一の大ネオンを誇ったキャバレーも映画館へ転換したことで、1950年代、市内には20以上の館が立ち並び客席の合計は1万を超えた。名実ともに「映画の街」として隆盛を誇った佐世保だったが、テレビやレンタルビデオの普及、娯楽の多様化に伴い、映画館は少しずつ姿を消し、2018年現在、シネマボックス太陽(旧太陽劇場1965)が営業を続けているのみとなっている。



多くの映画館がひしめいていた  
1953年(昭和28年)当時の佐世保市街地  
佐世保市勢要覧(1953)佐世保市立図書館蔵

- 1889 佐世保鎮守府開庁
- 1897 エクラン東宝の前身となる芝居小屋「弥生座」生まれる
- 1910 佐世保で初の映画が上映
- 1913 佐世保初の常設映画館として朝日館オープン
- 1914 映画館と芝居小屋をかねた劇場「佐世保座」オープン  
戦前までに12館に増加
- 1945 終戦 戦災で映画館は7館に
- 1950 朝鮮戦争の特需によりキャバレーやダンスホールなどが市内に誕生
- 1953 朝鮮戦争休戦によりダンスホールなどが次々に映画館に転向
- 1954 佐世保の富士映画劇場で「ローマの休日」日本初公開
- 1980 レンタルビデオ店増大
- 2011 エクラン東宝閉館  
以降市内の映画館はシネマボックス太陽1館のみに

参考資料：佐世保事典(頁14)

取材協力：佐世保シネマクラブ

(有)ライフ企画社

シネマボックス太陽



## 映画監督 × 佐世保

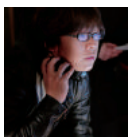


横尾 初喜  
ヨコオ ハツキ

1979年佐世保市生まれ。青雲高校、横浜国立大学卒。フーリンラーズ株式会社取締役。在学中より映像制作を開始し、ミュージックビデオ、テレビ番組等の制作を経て、2017年「ゆらり」で映画監督デビュー。現在、井浦新を主演に迎え、長崎・佐世保でのロケを敢行し、自身のルーツに迫った長編映画「こはく」制作中。また、「第7回させば文化マンス」で、家族をテーマとしたドキュメンタリー映像を公開予定。

◎こんな作品を撮っています

「ゆらり」予告編



三木 孝浩  
ミキ タカヒロ

(C)2018 映画「坂道のアポロン」  
製作委員会 (C)2008 小玉ユキ  
/小学館◎発売元:アスミック・  
エース/小学館◎販売元:東宝  
Blu-ray&DVD好評発売中!

1974年徳島県生まれ。映画監督。多数のミュージックビデオやCMなどを監督し、カンヌ国際広告祭2009 /メディア部門金賞などを受賞。「ソラニン」(2010)で長編監督デビュー以降、『アオハライド』(2014)、『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』(2016)などを手掛ける。佐世保との縁は、『坂道のアポロン』(2018)から。最新作「フォルトゥナの瞳」が2019年公開待機中。

◎こんな作品を撮っています

ながさき旅ネット

「三木孝浩監督 撮影作品特集」



志岐 誠  
シキ マコト

1967年佐世保市生まれ。佐世保北高・東京農業大学卒。テレビ制作会社「時空工房」、[NAVI]を経て、2012年、東京・渋谷に、映像制作や映画祭運営を行う株式会社 佐世保映像社を設立し、代表取締役に就任。2017年に、「佐世保と渋谷を繋ぐ」をテーマとした2拠点会場による短編映画祭「渋谷TANPEN映画祭CLIMAX at佐世保」を立ち上げ、来年2回目の開催を予定している。

◎こんな作品を撮っています

「夕焼けスクランブル」予告編



けむりのまきたろう

生年月日・本名非公開。佐世保市在住。「煙野映画」主宰。ひょんなことから本業とは別に、佐世保を舞台にした自主映画制作チーム「煙野映画」を立ち上げ、これまで4本の短編映画の撮影を敢行。平時は、映画と小説と音楽に支えられて、毎晩、麦酒を飲むの楽しみに暮らしている。「第7回させば文化マンス」では、デビュー作「暴中ハンター☆優」を上映予定。

◎こんな作品を撮っています

「あかりのあかり」予告編



今も、  
佐世保は「映画の街」である  
「映画の街」佐世保はもう過去のものだろうか？  
4人の映画監督に聞く佐世保が「映画の街」で  
あり続ける4つの理由。

Town  
of a  
Movie



佐世保は「映画の街」である  
なぜなら「愛」があるから。

— 横尾 初喜

ミュージックビデオからコマーシャルまで、様々な映像を制作してきましたが、僕にとって映画は誰かからお願いされて作るものではありません。ですから、映画は、自分がどんな人間であるか、ということ表現するためにやっている仕事とも言えます。そんな僕にとって一番大切なものは家族であり、友人であり、地元。今年行なった2作目の映画「こはく」の撮影では、その思いを強くしました。幼い頃親しんだ風景、オーディション

に集まってくれたたくさんの子どもたち、手弁当で協力してくれた多くの仲間たち。そういえば、ロケ地めぐりで県内様々な場所を訪れる中、佐世保での僕の表情を見て、帯同してくれた著名なカメラマンの方から言われた「横尾さんの愛はここにある」という言葉に、はっとしたのを覚えています。作り方をはじめ、東京では絶対にありえない作品が生まれる佐世保は、僕にとって間違いなく愛のある「映画の街」です。

佐世保は「映画の街」である  
なぜなら「化学反応」があるから。

— 三木 孝浩



映画のロケハンのため、佐世保を訪れてまず驚いたのが様々な文化がエネルギーに融け合ってきた独特の空気感でした。古くから在日米軍の基地があるため、アメリカンカルチャーがそこかしこに自然と馴染んでいるのも面白かったのですが、佐世保自体も九州の各地から人が集まっていて、異文化が常に化学反応を起こしながら熱を生み出している街だと感じました。でもその化学反応を可能にしてるのは、佐世保の方々

の「来るもの拒まず」の精神だと思います。壁を作ることなく新しいモノ新しいコトを一緒に楽しもうというポジティブさに満ちていて、ロケでお伺いした僕らまでワクワクさせてくれましたし、そんな中で映画作りを行うことができたのは本当に幸せな体験でした。またいつか佐世保という街が起こす化学反応に胸ときめかせてその高揚感に包まれながら、佐世保の皆さんと一緒に映画を撮る日が来ることを心から願っています。

第1回渋谷TANPEN映画祭  
CLIMAX at 佐世保



佐世保は「映画の街」である  
なぜなら「映画祭」があるから。

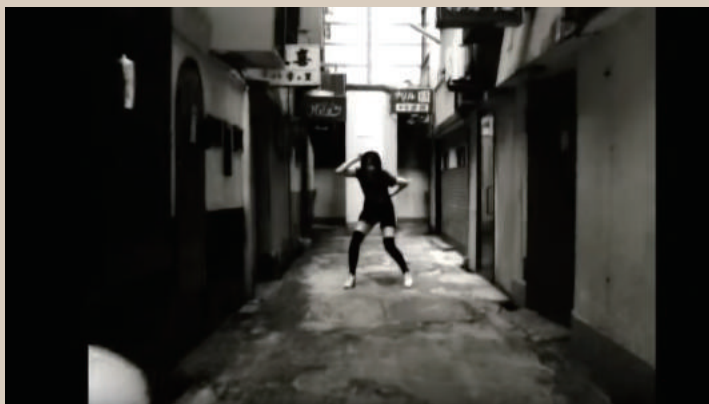
— 志岐 誠

人生凹んだ時に不思議な力をくれるのが映画です。その映画が自分の街で撮影されているとなればまた格別でしょう。「映画は、街、人、音楽、ファッションを映像で真空パックするタイムマシンだ」と、俳優でありアジア最大級の国際短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル」を主宰する別所哲也氏は言います。その別所さんをはじめ渋谷と佐世保の沢山の方の支えで、私も昨年、渋谷に集まった作品が佐世保でグラ

ンプリを受賞する2地域連携型の短編映画祭「渋谷TANPEN映画祭CLIMAX at 佐世保」を始動させました。そして、映画祭開催に合わせ、毎年1本、2つの街を舞台にした作品を作るというチャレンジの第1作目が「夕焼けスクランブル」(※P.2掲載)です。この映画祭や上映作品が、佐世保はもちろん、世界の皆さんの笑顔に少しでも繋がればとても嬉しいです。渋谷と佐世保が短編映画の街になる！それが私の夢です。

佐世保は「映画の街」である  
なぜなら「路地」があるから。

— けむりのまきたろう



「暴中ハンター☆優」より

映画を撮るには、「被写体」と「機材」が必要です。子どもの頃から映画制作にはずっと憧れがありました。でも撮れなかった。それは高価な「機材」がなかったから。一方、佐世保には、当時から、いやそれよりも昔から、そして今でも「被写体」としての魅力があります。僕にとっては、25万都市でありながら、時代の流れとすっぽり切り離されたような「路地」がそれです。2012年、iPadとアプリが機材の問題を解決してくれてから、青春を取

り戻すように制作を開始しました。記念すべき一作目にした「路地」は、いわゆる飲み屋街(上京町~下京町~山県町~塩浜町)。アメリカ海兵隊員に言わせれば「サケ・タウン」。セットでは決して作れない時間の蓄積にカメラ(iPad)を向けました。あくまで自主映画、自分の街を自分で撮る。テクニックではなく情熱で撮る。走って見たかった路地を走る。その舞台が僕にとっての「映画の街」佐世保です。



## 映画をきっかけに広がるコミュニケーション

2016年にお店として自主企画の映画上映をやれたことが活動のきっかけです。その際出会った、会場のブルーマイルさんと意気投合し、自分たちで映画を上映する方法を知り「案外できるものなんだな」という流れに。「社会を変えてやるぞ」という意気込みというよ

り、まずは自分たちが「見たい」、次に「見てほしい」という気持ちや継続性を大事に活動しています。映画自体から感動をもらえるのはもちろん、口コミを中心に広がっているお客さんの反応や、その場で新たな関係生まれることも運営の醍醐味です。



つながる雑貨屋 てとて舎  
森田さん、山村さん、内田さん

## つないでいきたい佐世保の映画文化

お店をやるため、大きな音楽をかけられるハコを探していたところ、エクラン東宝だったこの物件がちょうど貸しに出ていたんです。10代の頃、よくこのあたりに来ていたんですが、当時まだ手書きの映画看板があったのを覚えています。そんな場所で今お店を

やったり、映画上映に携わっているのは不思議な気分ですね(笑)。市内ではシネマボックスさんが唯一の映画館になってしまいました。文化の継続には、正直、お金の問題もつきまといます。それでも、映画文化は佐世保に残ってほしいと思います。



cafe&bar Blue Mile  
堤さん

## 大人も子どもも楽しめる映画体験を

実は、先代の住職が本堂に映写室を作って映画上映をやっていたんです。それを、復活させようと考えていたところ、シネマコンネさんとの出会いがあり4月から参加しました。お寺で保育園と幼稚園をやっていたり、自分も小さな子どもを持つ親ということもあり、通常の映画

館には行きにくい子ども、大きなスクリーンで映画を楽しめるような場が欲しかったんです。もちろん普通の映画館とは違って、明るかったり、外の音が聞こえたりもしますが、それはそれで、夕暮れや虫の音など季節や時間の流れが楽しめているものですよ。



大智山 教法寺  
和田さん

シネマコンネ ナインティナイン

### CINEMA CONNE99

ソーシャルシネマ(※)やドキュメンタリー映画の自主上映会を主催する市民団体。「つぎいちシネマ」の名前で、月に1作品、2会場で上映会を開催している。

※ソーシャルシネマ=社会的課題をテーマにした映画



上映会会場

cafe&bar Blue Mile  
佐世保市栄町7-5エクランビル2F  
教法寺  
佐世保市元町5-24  
(問合せ先) ☎0956-76-8266(てとて舎)

### ザ・トゥルー・コスト

～ファストファッション 真の代償～

上映映画紹介



シネマコンネを始めるきっかけとなった作品。私たちの服に対する当たり前の感覚が揺さぶられます。

予告編 >



出会おう、作ろう、サセボカルチャー。

第7回

# させぼ文化マンス



佐世保の文化を担うひと・文化にふれるひとを大きく育てていこうとスタートした佐世保文化の強化月間です。第7回目となる今年は、これまでのアート、音楽、書道、絵本、DJなどに映画も加わりさらにパワーアップ！会場で見なさまとの出会いを楽しみにしています。

期 \ メインプログラム：11/10(土)11(日)  
間 \ イベント期間：11/1(木)～30(金)

会 \ メイン会場：アルカスSASEBO  
場 \ その他会場：佐世保市博物館島瀬美術センター

## 映画

映像文化  
アーカイブとしての  
佐世保映画祭



空の大怪獣ラドン  
1956年(昭和31年)  
©TM & 1956 TOHO CO., LTD



裸足の青春  
1956年(昭和31年)  
国立映画アーカイブ所蔵  
©TM & 1956 TOHO CO., LTD



スイートスイートゴースト  
2000年(平成12年)  
©2000/日活、Softgarage



69 sixty nine  
2004年(平成16年)  
©2004 [69 sixty-nine] 製作委員会



永遠の1/2  
1987年(昭和62年)

永遠の1/2の劇中写真・ポスター・チラシは、公式・非公式を含め、入手が非常に困難となっております。未掲載について、悪しからずご了承ください。

## 映画

### 佐世保が舞台の 短編映画上映会



暴中ハンター☆優

夕焼けスクランブル

子ども食堂から、家族の形を  
切り取ったドキュメンタリー

## アート・絵画

「させぼ大好き」  
共同制作絵画展

世知原茶のデザインをしよう

高校生書道パフォーマンス

水玉大作戦

## 音楽・ダンス・ファッション

佐世保キッズカルチャー  
フェスティバル 2018

させぼダンス  
フェスティバル SPACE

岸野雄一特別講義  
&DJ パフォーマンス  
with 珍盤亭娯楽師匠

佐世保市少年少女  
合唱団交流演奏会

フォーク大全  
あの頃僕たちは若かった

静けさを聴く音楽・  
ライターと絵本の世界

## 本・絵本

ビブリオバトル  
2018 in SASEBO

じんねみどん

音と絵のあるお話し会

## 島瀬美術センター

フランス近代絵画と  
珠玉のラリック展  
—やすらぎの美を求めて—

新進シャンソン歌手出演  
新秋シャンソンショー

サタデーナイト・トーク  
～昼間は語れない禁断の作品解説～

オペラ歌手(兼)農夫松尾俊哉による  
ミュージアム・コンサート&トーク  
～おもしろオペラ～



## 表紙のストーリー



1954年(昭和29年)、映画史に残る名作「ローマの休日」は、全国に先駆け佐世保で封切りされた。当時の新聞には、「ご要望に応え全国第一封切」などの文字が踊っている。「映画の街」佐世保を象徴する出来事。

イベント詳細は  
Facebookページを  
ご確認ください。



第7回 させぼ文化マンス

7回目となる文化マンスは、佐世保ゆかりの映画上映をはじめ  
ダンスに音楽、本に書道とイベントもりたくさん。  
来て、見て、ふれて、佐世保文化の「今」を体感しよう!

7th  
させぼ文化マンス

メインプログラム  
11/10 SAT 11 SUN  
イベント期間：11/1 (THU) ~ 30 (FRI)

会場  
アルカスSASEBO  
佐世保市博物館島瀬美術センター

出会おう、作ろう、させボカルチャー!

JAPANESE CALLIGRAPHY / BOOK / FASHION / DANCE / ART / MOVIE / MUSIC / PHOTOGRAPHY

主催 させぼ文化マンス実行委員会・佐世保市 事務局 アルカスSASEBO内 TEL 0956-42-1111

毎月、市内文化施設のイベントカレンダーを佐世保市ホームページ、Facebookページ「文化のチカラ」に掲載しています。